居士ケ岳

居士ケ岳は、姫ケ嶽と背中合わせになっている。露熊の集落はその麓にある。このあたりは古来クマが多くすんでいたので強熊とも呼ばれている。深山のことで、ここに住みついたのは落人で、地主中島氏の祖先だという。落人たちは弓矢の道にすぐれたものはみな、一日中山に行きクマやサルなどを狩り、暮らしていた。

ある冬の日のことであった。一人の猟師がイヌを連れて狩りに出かけた。非常に寒さがきびしく、大雪が降っていた。と、大クマが猛然とあらわれ出て飛びかかってきた。猟師は日ごろの手並みを見せるのはこのときとばかりに、山を越え谷を渡り、頂上までクマを追いつめ、とうとう千尋の谷底まで落としてしまった。日も暮れかかり吹雪はますます激しくなり、猟師は犬もろとも雪のなかで立往生したという。

いまなお居士ケ岳の頂上の猟師がイヌをつれ立っている姿は、はるか遠くからも見え、西郷南洲の銅像より偉大であるという。